

V T X D Cダイナミックバランスファンド (安定成長型)

運用報告書（全体版）

第3期（決算日 2026年2月25日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「V T X D Cダイナミックバランスファンド（安定成長型）」は、このたび第3期の決算を行いました。当ファンドは、V T X D Cダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンドへの投資を通じて主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITに投資し、リスクをコントロールしながら信託財産の成長を図ることを目的としております。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行いました。ここに運用経過等についてご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2023年3月1日から原則として無期限です。	
運用方針	V T X D Cダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド（以下、「マザーファンド」ということがあります。）への投資を通じて主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITに投資し、リスクをコントロールしながら信託財産の成長を図ることを目的としております。	
主要投資対象	当ファンド	V T X D Cダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド
	マザーファンド	日本を含む世界の株価指数先物取引に係る権利、日本を含む世界の国債先物取引に係る権利、上場投資信託およびわが国の公社債
組入制限	当ファンド	●株式への実質投資割合には制限を設けません。 ●外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。 ●デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。
	マザーファンド	●株式への投資割合には制限を設けません。 ●外貨建資産への投資割合に制限を設けません。 ●デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。
分配方針	毎決算時（年1回、原則毎年2月25日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額は、経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。	

バーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社

東京都千代田区有楽町一丁目13番1号
<https://www.vtx-is.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

フリーダイヤル：0120-43-7472

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時 土・日・祝日・年末年始を除く）

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】
・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			株 式 先 物 比 率	債 券 組 入 比 率	債 券 先 物 比 率	投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 込 分 配	み 金	期 中 騰 落 率					
(設定日)	円		円	%	%	%	%	%	百万円
2023年3月1日	10,000		—	—	—	—	—	—	2,500
1期(2024年2月26日)	10,362		0	3.6	20.3	33.4	25.8	17.9	2,843
2期(2025年2月25日)	10,396		0	0.3	13.3	32.1	60.1	22.8	6,374
3期(2026年2月25日)	10,726		0	3.2	18.6	33.5	45.6	21.1	7,446

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。
(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。
(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。
(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。
(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。
(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率。
(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。
(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。
(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	株 先 物 比 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 入 比 率
(期 首) 2025年2月25日	円 10,396	% —	% 13.3	% 32.1	% 60.1	% 22.8
2月末	10,390	△0.1	15.0	32.0	57.2	23.2
3月末	10,299	△0.9	19.2	21.8	44.0	19.6
4月末	10,215	△1.7	14.3	50.8	59.4	16.6
5月末	10,248	△1.4	14.3	33.7	55.2	15.4
6月末	10,343	△0.5	17.9	32.9	51.3	15.4
7月末	10,413	0.2	21.8	32.4	54.4	18.8
8月末	10,462	0.6	22.2	31.9	56.2	21.1
9月末	10,546	1.4	23.2	31.3	54.6	22.0
10月末	10,697	2.9	19.1	37.1	57.8	23.9
11月末	10,675	2.7	15.2	34.0	63.1	23.1
12月末	10,584	1.8	15.0	34.1	62.2	22.7
2026年1月末	10,578	1.8	18.4	34.1	31.5	20.8
(期 末) 2026年2月25日	10,726	3.2	18.6	33.5	45.6	21.1

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

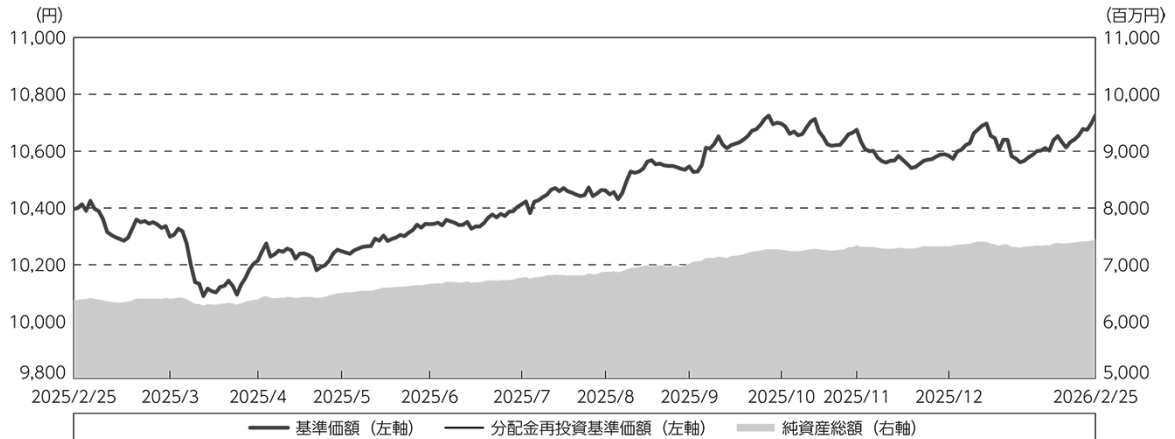
(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

○運用経過

(2025年2月26日～2026年2月25日)

期中の基準価額等の推移



期 首：10,396円

期 末：10,726円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 3.2% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、当ファンドの決算時に分配金があった場合に、分配金（税引前）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについては受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、受益者のみなさまの損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首（2025年2月25日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

主として日本国債がマイナス寄与した一方、日本株式や新興国株式等がプラス寄与し、基準価額は上昇しました。

投資環境

【株式市場】

世界の株式市場は日本、先進国、新興国いずれも上昇しました。

当作成期初から2025年4月上旬までは、米政権の関税政策を巡る不透明感や景気減速懸念を背景に下落しました。特に4月上旬に米政権が発表した相互関税は市場予想を大幅に上回る厳しい内容となり、株式市場は一時大幅に下落しました。その後、米国が対中国以外への相互関税の適用を一時猶予したことで市場心理が改善し、株式市場は上昇に転じました。以降、労働市場の軟化懸念等による一時的な下落局面も見られましたが、関税交渉の進展や米国の利下げ期待等を背景に、10月頃までは米大手ハイテク株式を中心に株式市場は上昇しました。11月以降、当作成期末までは、過剰なAI投資に対する懸念や割高感等からハイテク株式が軟調に推移する局面も続く一方で、米国の利下げ期待の継続等を背景に株式市場は上昇が継続しました。米国株式の上昇ペースが鈍化する中で、米国からの地域分散ニーズの高まりを受けて、新興国株式や欧州圏の株式等は米国株式を上回るパフォーマンスとなりました。また、日本株式は高市政権の経済政策への期待を背景に上昇が目立ち、特に2026年に入り、衆院解散による与党の議席拡大が織り込まれたことで大きく上昇しました。

【債券市場】

世界の国債市場は、日本が下落する一方、先進国は上昇しました。

日本では、米国の関税政策への懸念から、2025年4月にかけて金利は低下（価格は上昇）しましたが、その後は日銀への利上げ観測の高まりや、高市政権の拡張的な財政スタンス等から金利は大きく上昇（価格は下落）しました。

先進国では、2025年4月に米国の関税政策への懸念を受けて金利は低下しました。その後はリスク選好による株式の上昇に伴い、金利は上昇に転じる局面もありましたが、期を通じてみれば、米国の労働市場の軟化等を受けたFRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ期待などから金利は米国を中心に下落しました。一方、ドイツはECB（欧州中央銀行）の利下げフェーズの停止や財政拡張懸念等からやや上昇傾向で推移しました。

米国の物価連動国債市場、米国の投資適格社債市場、新興国の米ドル建て債券市場（いずれも米ドルベース）は上昇しました。米国の実質金利の低下に加え、高水準の米国金利を背景としたインカム収益がプラス寄与しました。クレジットスプレッドは2025年4月に一時大幅に拡大したものの、その後は縮小に転じ、期を通じては概ね横ばいで推移しました。

【REIT市場】

国内のREIT市場は上昇しました。

当作成期初から2025年末ごろまでは日本金利の上昇が重しとなりつつも、割安感や物件取得による成長期待から上昇が継続しました。一方、2026年以降は日本金利の一段の上昇により売りが膨らみ下落に転じましたが、期を通じては、国内REIT市場は上昇しました。

米国のREIT市場（米ドルベース）は上昇しました。

当作成期初から2025年4月上旬までは、米政権の関税政策を巡る景気減速懸念によって下落しました。その後、9月末頃までは、投資家心理の改善や米国金利の低下を背景に上昇基調で推移しました。2025年後半は米国の利下げの一方で長期金利が概ね横ばいで推移したことで上値の重い展開となり、当作成期初から2025年末までは概ね横ばいでの推移となりました。2026年に入り、長期金利の低下と割安感の高まりから当作成期末までは上昇し、期を通じては、上昇となりました。

【米ドル・円為替市場】

米ドル・円為替市場は米ドル高・円安となりました。

当作成期初から2025年4月にかけては、米国の関税政策が世界経済へ与える影響が懸念され、リスクを回避する動きが強まり、米ドル安・円高が大きく進みました。トランプ大統領によるFRBへの介入の懸念や不透明な政策を背景に米ドルへの信認が揺らいだこと等も米ドル安に影響しました。その後も、米国資産からの分散の流れ等から多くの期間で米ドル安圧力がかかる一方で、日本でも財政懸念等から円売り圧力が強く、2025年末まで米ドル高・円安が進みました。2026年に入り、円安圧力の継続の一方で為替介入への警戒感から大きく米ドル安・円高が進む局面も見られ、概ね横ばいで推移したことで、期を通じては米ドル高・円安となりました。

当ファンドのポートフォリオ**【当ファンド（ベビーファンド）】**

V T X ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンドの組入比率を高位に維持しました。

【V T X ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド】

主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITを実質的な投資対象とする国際分散投資を行いました。各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオから期待リターンを推定し、目標リスク水準における期待リターンが最大となるように構築したベースラインポートフォリオを起点に、独自の定量モデルを活用して追加的な収益の獲得をめざす戦略や市況急変に対する資産保全を目的とした日次のリスクモニタリングを組み合わせ、ポートフォリオを構築しました。

ベースラインポートフォリオでは、各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオの特徴から、リスク水準や他資産との相関が低い資産の組入比率が高く、リスク水準や他資産との相関が高い資産の組入比率が低くなる傾向があります。当期は幅広い資産に分散投資しましたが、相対的に日本国債や先進国国債の組入比率が高い状態で推移しました。また、目標リスク水準（年率4%）を勘案し、レバレッジ（ポジションの合計）は80%～100%程度、その内訳は安定資産が45%～65%程度、リスク性資産が25%～40%程度で推移しました。

追加的な収益の獲得をめざす戦略では、期を通じてファクター分析に基づく先進国株式および先進国国債内における国選択を実施したほか、当作成期間は多くの期間で景気サイクルや投資家センチメント等が良好であると判断し、先進国株式の組入比率を引き上げ、先進国国債の組入比率を引き下げる調整を行いました。

日次のリスクモニタリングでは、2025年2月下旬から3月下旬、4月上旬から4月下旬、5月中旬、10月中旬、11月上旬や中旬などで株式等のリスク性資産の下落リスクが高まったと判断したほか、2026年1月下旬から2月中旬にかけて先進国国債の下落リスクが高まったと判断し、資産保全のため対応資産の組入比率を機動的に引き下げました。

※日本国債と先進国国債を安定資産、それ以外の投資対象資産をリスク性資産といいます。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

当期の収益分配金につきましては商品性、基準価額水準、市況動向等を勘案し、以下のとおりとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第 3 期
	2025年2月26日～ 2026年2月25日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	726

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

【当ファンド（ベビーファンド）】

V T X ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンドの組入比率を原則として高位に保つ運用を行います。

【V T X ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド】

主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITを実質的な投資対象とする国際分散投資を行います。各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオから期待リターンを推定し、目標リスク水準における期待リターンが最大となるように構築したベースラインポートフォリオを起点に、独自の定量モデルを活用して追加的な収益の獲得をめざす戦略や市況急変に対する資産保全を目的とした日次のリスクモニタリングを組み合わせ、目標リスク水準を年率4%程度にコントロールしながら信託財産の成長をめざす運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年2月26日～2026年2月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	86	0.825	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(37)	(0.356)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(46)	(0.436)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.018	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.004)	
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(1)	(0.013)	
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(投 資 信 託 証 券)	(0)	(0.001)	
(d) そ の 他 費 用	2	0.024	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.013)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の 送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(1)	(0.006)	信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	90	0.868	
期中の平均基準価額は、10,454円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

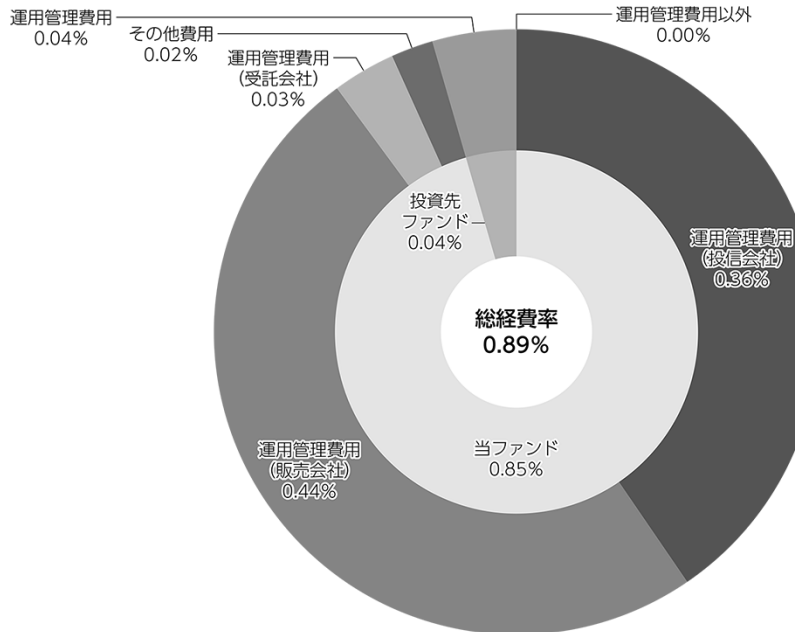
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.89%です。



(単位:%)

総経費率 (①+②+③)	0.89
①当ファンドの費用の比率	0.85
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.04
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算したもので、項目ごとに小数第2位未満は四捨五入してあります。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドのマザーファンドが組み入れている投資信託証券です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況 (2025年2月26日～2026年2月25日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド	千口 834,043	千円 889,000	千口 84,074	千円 90,000

○利害関係人との取引状況等 (2025年2月26日～2026年2月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細 (2026年2月25日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド	千口 6,001,755	千口 6,751,724	千円 7,425,546

○投資信託財産の構成 (2026年2月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド	千円 7,425,546	% 99.2
コール・ローン等、その他	57,334	0.8
投資信託財産総額	7,482,880	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（1,610,677千円）の投資信託財産総額（7,435,204千円）に対する比率は21.7%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=155.83円、1カナダドル=113.74円、1ユーロ=183.46円、1イギリスポンド=210.40円、1オーストラリアドル=110.25円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2026年2月25日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	7,482,880,858
コール・ローン等	57,333,522
VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド(評価額)	7,425,546,221
未収利息	1,115
(B) 負債	36,345,731
未払解約金	6,166,127
未払信託報酬	30,035,520
その他未払費用	144,084
(C) 純資産総額(A－B)	7,446,535,127
元本	6,942,295,103
次期繰越損益金	504,240,024
(D) 受益権総口数	6,942,295,103口
1万口当たり基準価額(C／D)	10,726円

(注) 期首元本額 6,131,846,504円
期中追加設定元本額 1,390,096,066円
期中一部解約元本額 579,647,467円
(注) 1口当たり純資産額は1.0726円です。

(注) 分配金の計算過程

項 目	2025年2月26日～ 2026年2月25日
a. 配当等収益(経費控除後)	59,693,926円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	127,389,078円
c. 信託約款に定める収益調整金	228,636,931円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	88,520,089円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	504,240,024円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	726円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○損益の状況（2025年2月26日～2026年2月25日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	269,170
受取利息	269,170
(B) 有価証券売買損益	276,991,533
売買益	286,160,608
売買損	△ 9,169,075
(C) 信託報酬等	△ 57,037,263
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	220,223,440
(E) 前期繰越損益金	55,379,653
(F) 追加信託差損益金	228,636,931
(配当等相当額)	(159,827,338)
(売買損益相当額)	(68,809,593)
(G) 計(D＋E＋F)	504,240,024
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G＋H)	504,240,024
追加信託差損益金	228,636,931
(配当等相当額)	(161,106,453)
(売買損益相当額)	(67,530,478)
分配準備積立金	275,603,093

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

（注）分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、分配金は全額普通分配金となります。

（注）分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

（注）分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合は、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

（注）元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

○お知らせ

「投資信託及び投資法人に関する法律」第14条の改正に伴い、2025年4月1日付けで投資信託約款の運用報告書の電子交付に関する条文に所要の変更を行いました。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

VTX ダイナミックバランス（安定成長型）マザーファンド

運用報告書

第3期（決算日 2026年2月25日）
（2025年2月26日～2026年2月25日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2023年3月1日から原則として無期限です。
運用方針	主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITに投資し、信託財産の成長を図ることを目的としております。
主要投資対象	日本を含む世界の株価指数先物取引に係る権利、日本を含む世界の国債先物取引に係る権利、上場投資信託およびわが国の公社債
組入制限	●株式への投資割合には制限を設けません。 ●外貨建資産への投資割合に制限を設けません。 ●デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

バーテックス・インベストメント・ソリューションズ株式会社

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 期 騰 落 中 率	株 先 物 比 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 額
(設定日)	円	%	%	%	%	百万円
2023年3月1日	10,000	—	—	—	—	2,487
1期(2024年2月26日)	10,449	4.5	20.4	33.6	26.0	2,826
2期(2025年2月25日)	10,570	1.2	13.4	32.3	60.4	6,343
3期(2026年2月25日)	10,998	4.0	18.6	33.6	45.7	7,425

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	株 先 物 比 率	債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率
(期 首)	円	%	%	%	%
2025年2月25日	10,570	—	13.4	32.3	60.4
2月末	10,565	△0.0	15.1	32.2	57.4
3月末	10,479	△0.9	19.3	22.0	44.2
4月末	10,400	△1.6	14.4	51.1	59.8
5月末	10,441	△1.2	14.4	33.9	55.6
6月末	10,546	△0.2	18.0	33.1	51.7
7月末	10,625	0.5	21.9	32.6	54.7
8月末	10,682	1.1	22.3	32.1	56.5
9月末	10,776	1.9	23.3	31.5	54.9
10月末	10,939	3.5	19.2	37.2	57.9
11月末	10,923	3.3	15.3	34.2	63.5
12月末	10,838	2.5	15.1	34.2	62.4
2026年1月末	10,839	2.5	18.4	34.2	31.6
(期 末)					
2026年2月25日	10,998	4.0	18.6	33.6	45.7

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 株式先物比率は買建比率－売建比率。

(注) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

○運用経過

(2025年2月26日～2026年2月25日)

基準価額の推移



○基準価額の主な変動要因

主として日本国債がマイナス寄与した一方、日本株式や新興国株式等がプラス寄与し、基準価額は上昇しました。

投資環境

【株式市場】

世界の株式市場は日本、先進国、新興国いずれも上昇しました。

当作成期初から2025年4月上旬までは、米政権の関税政策を巡る不透明感や景気減速懸念を背景に下落しました。特に4月上旬に米政権が発表した相互関税は市場予想を大幅に上回る厳しい内容となり、株式市場は一時大幅に下落しました。その後、米国が対中国以外への相互関税の適用を一時猶予したことで市場心理が改善し、株式市場は上昇に転じました。以降、労働市場の軟化懸念等による一時的な下落局面も見られましたが、関税交渉の進展や米国の利下げ期待等を背景に、10月頃までは米大手ハイテク株式を中心に株式市場は上昇しました。11月以降、当作成期末までは、過剰なAI投資に対する懸念や割高感等からハイテク株式が軟調に推移する局面も続く一方で、米国の利下げ期待の継続等を背景に株式市場は上昇が継続しました。米国株式の上昇ペースが鈍化する中で、米国からの地域分散ニーズの高まりを受けて、新興国株式や欧州圏の株式等は米国株式を上回るパフォーマンスとなりました。また、日本株式は高市政権の経済政策への期待を背景に上昇が目立ち、特に2026年に入り、衆院解散による与党の議席拡大が織り込まれたことで大きく上昇しました。

【債券市場】

世界の国債市場は、日本が下落する一方、先進国は上昇しました。

日本では、米国の関税政策への懸念から、2025年4月にかけて金利は低下（価格は上昇）しましたが、その後は日銀への利上げ観測の高まりや、高市政権の拡張的な財政スタンス等から金利は大きく上昇（価格は下

落）しました。

先進国では、2025年4月に米国の関税政策への懸念を受けて金利は低下しました。その後はリスク選好による株式の上昇に伴い、金利は上昇に転じる局面もありましたが、期を通じてみれば、米国の労働市場の軟化等を受けたFRB（米連邦準備制度理事会）の利下げ期待などから金利は米国を中心に下落しました。一方、ドイツはECB（欧州中央銀行）の利下げフェーズの停止や財政拡張懸念等からやや上昇傾向で推移しました。

米国の物価連動国債市場、米国の投資適格社債市場、新興国の米ドル建て債券市場（いずれも米ドルベース）は上昇しました。米国の実質金利の低下に加え、高水準の米国金利を背景としたインカム収益がプラス寄与しました。クレジットスプレッドは2025年4月に一時大幅に拡大したものの、その後は縮小に転じ、期を通じては概ね横ばいで推移しました。

【REIT市場】

国内のREIT市場は上昇しました。

当作成期初から2025年末ごろまでは日本金利の上昇が重しとなりつつも、割安感や物件取得による成長期待から上昇が継続しました。一方、2026年以降は日本金利の一段の上昇により売りが膨らみ下落に転じましたが、期を通じては、国内REIT市場は上昇しました。

米国のREIT市場（米ドルベース）は上昇しました。

当作成期初から2025年4月上旬までは、米政権の関税政策を巡る景気減速懸念によって下落しました。その後、9月末頃までは、投資家心理の改善や米国金利の低下を背景に上昇基調で推移しました。2025年後半は米国の利下げの一方で長期金利が概ね横ばいで推移したことで上値の重い展開となり、当作成期初から2025年末までは概ね横ばいでの推移となりました。2026年に入り、長期金利の低下と割安感の高まりから当作成期末までは上昇し、期を通じては、上昇となりました。

【米ドル・円為替市場】

米ドル・円為替市場は米ドル高・円安となりました。

当作成期初から2025年4月にかけては、米国の関税政策が世界経済へ与える影響が懸念され、リスクを回避する動きが強まり、米ドル安・円高が大きく進みました。トランプ大統領によるFRBへの介入の懸念や不透明な政策を背景に米ドルへの信認が揺らいだこと等も米ドル安に影響しました。その後も、米国資産からの分散の流れ等から多くの期間で米ドル安圧力がかかる一方で、日本でも財政懸念等から円売り圧力が強く、2025年末まで米ドル高・円安が進みました。2026年に入り、円安圧力の継続の一方で為替介入への警戒感から大きく米ドル安・円高が進む局面も見られ、概ね横ばいで推移したことで、期を通じては米ドル高・円安となりました。

ポートフォリオ

主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITを実質的な投資対象とする国際分散投資を行いました。各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオから期待リターンを推定し、目標リスク水準における期待リターンが最大となるように構築したベースラインポートフォリオを起点に、独自の定量モデルを活用して追加的な収益の獲得をめざす戦略や市場急変に対する資産保全を目的とした日次のリスクモニタリングを組み合わせ、ポートフォリオを構築しました。

ベースラインポートフォリオでは、各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオの特徴から、リスク水準や他資産との相関が低い資産の組入比率が高く、リスク水準や他資産との相関が高い資産の

組入比率が低くなる傾向があります。当期は幅広い資産に分散投資しましたが、相対的に日本国債や先進国国債の組入比率が高い状態で推移しました。また、目標リスク水準（年率４％）を勘案し、レバレッジ（ポジションの合計）は80％～100％程度、その内訳は安定資産が45％～65％程度、リスク性資産が25％～40％程度で推移しました。

追加的な収益の獲得をめざす戦略では、期を通じてファクター分析に基づく先進国株式および先進国国債内における国選択を実施したほか、当作成期間は多くの期間で景気サイクルや投資家センチメント等が良好であると判断し、先進国株式の組入比率を引き上げ、先進国国債の組入比率を引き下げる調整を行いました。

日次のリスクモニタリングでは、2025年２月下旬から３月下旬、４月上旬から４月下旬、５月中旬、10月中旬、11月上旬や中旬などで株式等のリスク性資産の下落リスクが高まったと判断したほか、2026年１月下旬から２月中旬にかけて先進国国債の下落リスクが高まったと判断し、資産保全のため対応資産の組入比率を機動的に引き下げました。

※日本国債と先進国国債を安定資産、それ以外の投資対象資産をリスク性資産といいます。

○今後の運用方針

主として日本株式、先進国株式、新興国株式、日本国債、先進国債券、新興国債券、国内REIT、先進国REITを実質的な投資対象とする国際分散投資を行います。各資産のリスク寄与度が等しいリスクパリティポートフォリオから期待リターンを推定し、目標リスク水準における期待リターンが最大となるように構築したベールポートフォリオを起点に、独自の定量モデルを活用して追加的な収益の獲得をめざす戦略や市況急変に対する資産保全を目的とした日次のリスクモニタリングを組み合わせ、目標リスク水準を年率４％程度にコントロールしながら信託財産の成長をめざす運用を行います。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年 2 月 26 日～2026年 2 月 25 日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料	円 2	% 0.018	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(0)	(0.004)	
（ 先 物 ・ オ プ シ ョ ン ）	(1)	(0.014)	
(b) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.001	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(0)	(0.001)	
(c) そ の 他 費 用	2	0.020	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託事務の処理等に要するその他の諸費用
（ 保 管 費 用 ）	(1)	(0.014)	
（ そ の 他 ）	(1)	(0.006)	
合 計	4	0.039	
期中の平均基準価額は、10,671円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2025年2月26日～2026年2月25日)

公社債

		買 付 額	売 付 額
国	国債証券	千円 3,985,537	千円 — (3,550,000)

(注) 金額は受け渡し代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) ()内は償還等による増減分です。

投資信託証券

銘 柄		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	i シェアーズ・コア J リート E T F	263,300	千円 494,313	265,100	千円 488,039
外	アメリカ		千米ドル		千米ドル
	ISHARES TIPS BOND ETF	102,968	11,339	101,399	11,169
	ISHARES IBOX INVESTMENT GRA	92,320	10,098	98,409	10,765
	ISHARES JP MORGAN USD EMERGI	78,498	7,374	78,458	7,273
	VANGUARD REAL ESTATE ETF	53,813	4,845	49,524	4,387
国	小 計	327,599	33,657	327,790	33,595

(注) 金額は受け渡し代金。

先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決 済 額	新規売付額	決 済 額
国	株式先物取引	百万円 2,425	百万円 2,648	百万円 —	百万円 —
内	債券先物取引	11,034	12,623	—	—
外	株式先物取引	7,110	6,605	—	—
国	債券先物取引	11,881	10,770	—	—

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) 外国の取引金額は、各月末（決算日の属する月については決算日）の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算した金額の合計です。

○利害関係人との取引状況等

(2025年2月26日～2026年2月25日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2026年2月25日現在)

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末						
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちB B格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円	千円	%	%	%	%	%
	2,500,000	2,496,501	33.6	—	—	—	33.6
	(2,500,000)	(2,496,501)	(33.6)	(—)	(—)	(—)	(33.6)
合 計	2,500,000	2,496,501	33.6	—	—	—	33.6
	(2,500,000)	(2,496,501)	(33.6)	(—)	(—)	(—)	(33.6)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期 末			
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	%	千円	千円	
第1294回国庫短期証券	—	1,000,000	999,554	2026/3/23
第1300回国庫短期証券	—	1,000,000	998,977	2026/4/20
第1326回国庫短期証券	—	500,000	497,970	2026/8/20
合 計		2,500,000	2,496,501	

国内投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数		口 数	評 価 額	比 率
i シェアーズ・コア J リート E T F	口		口	千円	%
	104,100		102,300	214,011	2.9
合 計	口 数 ・ 金 額	104,100	102,300	214,011	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	1	< 2.9% >	

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

外国投資信託証券

銘 柄	期首(前期末)		当 期 末		
	口 数	口 数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	口	口	千米ドル	千円	%
ISHARES TIPS BOND ETF	25,531	27,100	3,016	470,061	6.3
ISHARES IBOXX INVESTMENT GRA	23,589	17,500	1,954	304,554	4.1
ISHARES JP MORGAN USD EMERGI	19,360	19,400	1,894	295,205	4.0
VANGUARD REAL ESTATE ETF	14,911	19,200	1,826	284,622	3.8
合 計	口 数 ・ 金 額	83,391	8,691	1,354,444	
	銘 柄 数 < 比 率 >	4	—	<18.2%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

先物取引の銘柄別期末残高

銘 柄 別			当 期 末	
			買 建 額	売 建 額
国 内	株式先物取引	T O P I X	百万円 192	百万円 —
	債券先物取引	1 0 年国債標準物	1,193	—
		海外市場 JGB (SGX) m i n	79	—
外 国	株式先物取引	SP500MIN2603	591	—
		MSCIEMG 2603	225	—
		SPTSE60 2603	44	—
		EUROSTX 2603	146	—
		ASPI200 2603	49	—
		FTSE100 2603	134	—
	債券先物取引	CAN10YR 2603	504	—
		LONG GIL2606	175	—
		EB 10YR 2603	428	—
		10TNOTE 2603	511	—
		AUST10YR2603	498	—

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

○投資信託財産の構成

(2026年2月25日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	2,496,501	33.6
投資信託受益証券	1,568,455	21.1
コール・ローン等、その他	3,370,248	45.3
投資信託財産総額	7,435,204	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産（1,610,677千円）の投資信託財産総額（7,435,204千円）に対する比率は21.7%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=155.83円、1カナダドル=113.74円、1ユーロ=183.46円、1イギリスポンド=210.40円、1オーストラリアドル=110.25円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2026年2月25日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	7,808,004,511
コール・ローン等	3,043,456,361
公社債(評価額)	2,496,501,500
投資信託受益証券(評価額)	1,568,455,884
未収入金	457,725,359
未収配当金	2,455,200
未収利息	54,545
差入委託証拠金	239,355,662
(B) 負債	382,327,687
未払金	382,327,687
(C) 純資産総額(A－B)	7,425,676,824
元本	6,751,724,151
次期繰越損益金	673,952,673
(D) 受益権総口数	6,751,724,151口
1万口当たり基準価額(C／D)	10,998円

(注) 期首元本額 6,001,755,095円

期中追加設定元本額 834,043,837円

期中一部解約元本額 84,074,781円

(注) 2026年2月25日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・VTX DCダイナミックバランスファンド（安定成長型） 6,751,724,151円

(注) 1口当たり純資産額は1.0998円です。

○損益の状況 (2025年2月26日～2026年2月25日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	76,638,760
受取配当金	53,355,702
受取利息	22,838,763
その他収益金	444,295
(B) 有価証券売買損益	129,121,651
売買益	198,422,385
売買損	△ 69,300,734
(C) 先物取引等取引損益	78,526,473
取引益	440,183,802
取引損	△361,657,329
(D) 保管費用等	△ 1,419,476
(E) 当期損益金(A＋B＋C＋D)	282,867,408
(F) 前期繰越損益金	342,054,321
(G) 追加信託差損益金	54,956,163
(H) 解約差損益金	△ 5,925,219
(I) 計(E＋F＋G＋H)	673,952,673
次期繰越損益金(I)	673,952,673

* 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益および(C)先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

* 損益の状況の中で(G)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

* 損益の状況の中で(H)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上し処理しています。

○お知らせ

「投資信託及び投資法人に関する法律」第14条の改正に伴い、2025年4月1日付けで投資信託約款の運用報告書の電子交付に関する条文に所要の変更を行いました。